

夢の日々(四)

二人で入園し、 三人で卒園(三)



大多和 檀

再び、「夢の日々」だった神明幼稚園時代に戻ります。さて、ふみちゃん、せいちゃん
の二人は、年長の九月にさおりちゃんを迎え、三人となりました。

この「二」から「三」の変化は、これまでどんなに私が「三人目の子どもに」なろうと
がんばっても、本当の子どもにはかなわない、と痛感させられ、又、ふみちゃん、せい
ちゃんにとっては、友達同士のかかわり方に大きな大きな変化をもたらしたのです。

例えば、これまでは、せいちゃんがふみちゃんに話を持ちかけた時、「いいよ」となれば一緒にやり、「ヤダよ」と言われれば「じゃあせいじ一人でやるよ」となります（私は、その時々二人の気持ちに合わせて、一緒に遊んだり、どちらかに加わったり、時には、「保育者の目」から二人を解き放したりと様々でした）。

▼部屋の前で自

由に放たれて
いる動物たち
ウサギ三匹と
ニワトリを
飼っていまし
た。
ゲージの上の
箱にウサギが
います。





▼四人（私も含めて）てウサギとニワトリのお世話をしていました。

まん中のふみちゃんが抱いているのがウサギです。

が、三人になったことで、二対一、という関係が生じたのです。しかもこの二対一には、遊びや気が合ったということから三種類の組み合わせが生じてきます。

そして、三人で一つの事に取り組んでいる場合でも、二対一となって自分も「二」に加わりたいという思いが生じた場合でも、一人は「いいよ」と言いもう一人は「ダメ」と言



う、これまでの二人の生活にはなかった状況が出てきたのです。

ふみちゃん、せいちゃんの生活で欠けているのはこの状況でしたからこそ、私はなんとか「三人目の子ども」になろうとしていたのですが、さおりちゃんが加わったことで、

日々、いとも自然に、又突発的にこのような状況が生まれ、私も一つ力みが抜けました。

人間の生活は、「いい」か「ダメ」かとはっきり割り切れないことだらけです。常に「いい」と「ダメ」の両方が入りまじっていて、その中で、自分はどうかかわっていくのか考え、いい状況が生まれたり、それがダメな状況になったりの連続だと思うからです。

はじめのうちは、せいちゃんもふみちゃんもとてもとまどい、特にふみちゃんはせいちゃんにいつも受けとめられていたのに、「あっし（さおちゃんは自分のことをこう呼んでいました）はせいちゃんとやりたい。ふみちゃんはダメだよ」と言われ、ションポリすることもありました（この時のふみちゃんの支えとなったのは、みんなで飼っていたウサギでした）。

それでも三学期には次のようなやりとりがあったのです。

*

年少、年長でサッカー遊びをしていましたが、年少が部屋に入り三人だけになりました。

▼それぞれのおひな様が完成

左からふみちゃん、さおちゃん、せい

じくん

桃の花は大多和作です。

せいじ「じゃあ、今度はせいじ
が審判になるよ」

ふみことさおりの対戦となり、始
めは互角だったのですがふみこが先
にゴールし続けて二点とると、

さおり「あっし、やめる。ヤダ
よ」

ふみこ「ふみこがゴールしたか
らってやめるなんてずる
いよ」

せいじ「さおちゃんだってゴ-



ルするじゃん。やろう」

さおり「せいちゃんが、あっしの方に入ってくれたらやる」

せいじ「じゃあ、せいじ、さおちゃんのチームに入る」

ふみこ「ずるいよ、そしたら二人対一人になっちゃうよ、やだ」

さおり「じゃあ、やんない。ふみちゃんばっかしゴールして……」

ふみこ「じゃあ、せいじくん、さおちゃんチームに入っていていいよ。でも二対二になっ

たら、又審判になつてよ。それならいいよ」

せいじ「さおちゃんが、ふみちゃんチームと同じになったらせいじ、審判やるよ」

さおりはとてもうれしそうな顔になって、「わかった」

*

このようなやりとりをして遊ぶ三人に愛おしさが一杯でした。

(まこと幼稚園)